

令和7年度 同窓会記念誌 第31号

緑陽

Frontier Spirit

2025年テーマ(ひしょう)

飛翔

山梨県立甲府南高等学校同窓会

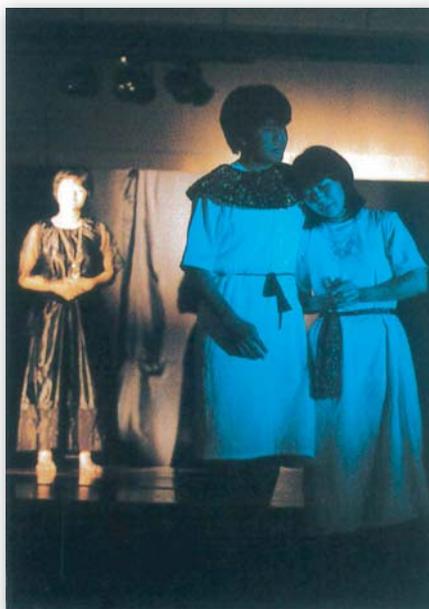
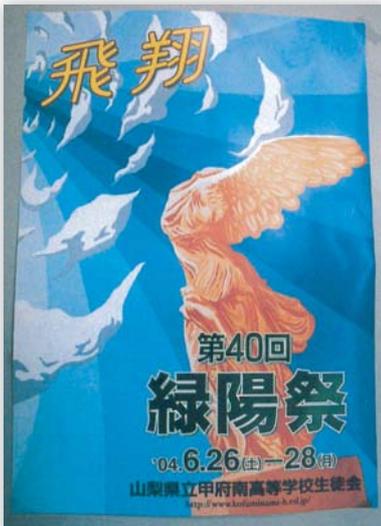
令和7年度テーマ『飛翔(ひしょう)』

母校の敷地内にそびえる楠木(クスノキ)。文字通り、南高を象徴する木として、長く学校を見守ってきました。その根元に石板が置かれ、刻まれている文字が「飛翔」。これまで受け継がれてきた伝統を土台とし、新たな歴史を紡いでいく。木のそばを行き来してきた在校生、卒業生をつなぐ。そのような思い、願いを込め、この言葉をテーマに選びました。われわれ第40期卒業生が3年生の時、緑陽祭のテーマとして使った言葉で

もあります。

世の中に目を移すと、先行きが不透明な社会情勢が続き、閉塞感が漂っている印象です。学校現場は少子化の波にさらされています。このような時代でも、社会は動き続け、人々の歩みも止まりません。明るく上を向き、それぞれが目標を立て、成果を得るために跳躍する。そんな「南高らしさ」を共有したいとの気持ちも込めました。

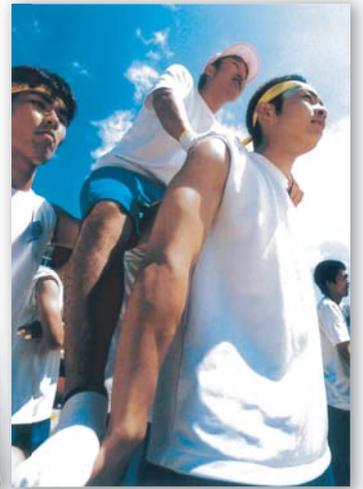
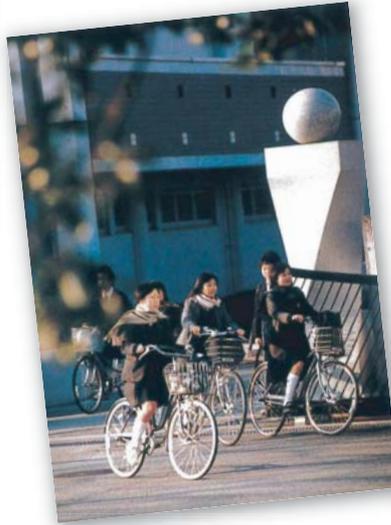
40期生 あの時の一コマ



Frontier Spirit!

J. Hinata

初代校長・日向誉夫先生直筆の校訓



令和7年度 甲府南高等学校同窓会 式次第

会 場；アピオ甲府
受 付；12:00～

総 会

13:00～14:00

会場；タワー館 4F
「祥華」

1. 開会宣言
2. 開会のことば
3. 実行委員会代表あいさつ
4. 同窓会会長あいさつ
5. 来賓紹介
6. 来賓祝辞
7. 物故恩師・会員への黙祷
8. 議長団選出
9. 議事
 - 1) 令和6年度事業報告
 - 2) 令和6年度決算報告
会計監査報告
 - 3) 令和7年度事業計画案
 - 4) 令和7年度予算案
 - 5) 役員改選
 - 6) その他
10. 議長団解任
11. 南高栄誉賞授与
12. 校歌演奏
13. 閉会のことば
14. 閉会宣言

懇親会

14:30～17:00

会場；タワー館 10F
「慶翔」

1. 開会宣言・開会のことば
2. 実行委員長あいさつ
3. 同窓会会長あいさつ
4. 来賓紹介
5. 来賓祝辞
6. 南高栄誉賞受賞者あいさつ
7. 「緑陽」表紙デザイン者表彰・あいさつ
8. 古希会員あいさつ
9. 乾杯
10. 首都圏支部東京同窓会会長あいさつ
11. アトラクション
吹奏楽部・管弦楽部・音楽部による演奏／
SSH課題研究発表
12. お楽しみ抽選会
13. 新旧実行委員会引継式
14. 校歌斉唱
15. 閉会のことば
16. 閉会宣言



令和7年度 総会開催に寄せて

甲府南高等学校
同窓会会長 笹本 憲 男

私は、本年4月に同窓会長に就任した五期卒業の笹本と申します。よろしくお願い申し上げます。

本年、母校である甲府南高等学校は創立63年を迎えました。昭和38年の開校以来、20,000名を超える卒業生を社会に送り出し、山梨県でも有数の進学校として学業・部活動ともに輝かしい成果を重ねてまいりました。

総会に各世代の同窓生が一堂に会し、母校の歩みを振り返り、そして未来を語り合えることは、同窓会長として大きな喜びであります。

一方で私たち同窓会が取り組むべき課題も見えてきました。

第一に、正確な名簿の整備です。20,000人を超える同窓会がつながりを実感できるよう、連絡体制を再構築していきたいと考えています。

第二に、会費の徴収方法の改善です。持続可能な運営を可能にするため、より分かりやすく、参加しやすい仕組みを模索しています。

そして第三に、母校の特色であるスーパーサイエンスハイスクール(SSH) 事業への支援です。未来の科学者を育む教育活動とともに、科学的な思考を持って山梨県の諸問題に取り組む教育に、同窓会としてどのように貢献できるか、皆さまとともに考えていきたいと思えます。

同窓会は、母校を応援するだけでなく、世代を超えて同窓生がつながるための大切な場です。この総会が、皆さまにとって旧友との再会や新しい出会いの機会となり、母校との絆をさらに深める一日になることを願ってやみません。

今回の総会・懇親会開催にあたり、40期、20期の実行委員の皆さまに感謝申し上げます。また、校長先生をはじめとする学校関係者の皆さま、各期常任理事など多くの関係者のご尽力・ご協力に心よりお礼申し上げます。

結びに、皆さまのご健勝とご多幸、そして母校甲府南高等学校の一層の発展を祈念し、会長の挨拶とします。



御 挨拶

山梨県立甲府南高等学校

校 長 篠 原 健

令和7年度甲府南高等学校同窓会総会が、テーマ『飛翔』のもと盛大に開催されますことを、心よりお祝い申し上げます。また、同窓生の皆様には、日頃より本校の教育活動に対し多大なるご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本校の卒業生は、21,000名を超え、県内外はもとより、世界各地の多様な分野で活躍されています。在校生は、創立以来63年にわたり受け継がれてきた校訓『開拓者精神～Frontier Spirit～』のもと、『真』『善』『美』の追究を通じて、高い志を抱きながら意欲的で活気ある高校生活を送り、互いに切磋琢磨しています。

部活動においては、5月の県高校総体にて、男子総合5位、女子総合6位という、公立普通科高校としては際立った成績を収めました。全国大会には、体育局では剣道部(男子個人1名)、卓球部(男子シングルス1名)、陸上競技部(女子三段跳1名)が広島県・山口県で行われた全国高校総体に出場しました。文化局では、生命科学部、物質化学部、書道部、将棋(クイズ研究会)、競技かるた(文芸部)が香川県で行われた総合文化祭に、放送部がNHK全国高等学校放送コンテストに、文芸部競技かるた支部が全国高等学校小倉百人一首かるた選手権に出場しました。その他にも多くの部が関東大会等に出場し、南高生が日々の努力の成果を全国・関東の舞台で存分に発揮しています。

平成16年度より文部科学省の指定を受けているSSH(スーパー・サイエンス・ハイスクール)事業も、今年で22年目を迎えました。本校では、科学的現象や社会課題に対して創造的かつ科学的なアプローチで解決できる人材の育成を目指し、課題研究を中心とした独自カリキュラムを開発してきました。現在は、これまでの成果をさらに深化させ、他校への普及にも力を入れ、全校体制でSSH事業の充実・発展に取り組んでおります。

また、インターアクト活動や「ボランティア1000回運動」などを通じて、他者を思いやり社会との絆を深める「しなやかな心」が育まれています。今後も、未知の分野や困難な課題に果敢に挑む「開拓者精神」を大切に、変化の激しい時代をしなやかに、そして力強く生き抜く人材、社会に貢献できる人材の育成に、教職員一丸となって努めてまいります。

結びに、令和7年度同窓会実行委員会の皆様のご尽力に深く感謝申し上げますとともに、同窓会のさらなる発展と、会員の皆様のご活躍を心より祈念申し上げ、お祝いの挨拶とさせていただきます。



同窓会開催に寄せて

令和7年度同窓会総会

実行委員長

宇賀神 将 樹

(40期卒)

甲府南高校同窓会総会・懇親会が本年度も盛大に開催できますことを、心よりお礼申し上げます。同窓会長をはじめ多くの役員の方さまや、ご賛同をいただいた企業、個人の皆さまらのお支えに深く感謝申し上げます。卒業生と在校生らの交流促進などにつながる機会となれば幸いです。

本年度のテーマは「飛翔」としました。学校の正門近くにそびえ立つ楠木（クスノキ）の根元に、石板が置かれているのをご存じでしょうか。そこに刻まれている文字がこの「飛翔」です。人口減少、長引く物価高などを背景に閉塞感が漂う今の時代にこそ大事にしたい言葉だと考え、テーマに据えました。苦境でも、卒業生、在校生ともできるだけ胸を張って前を向き、それぞれの目標に向かって跳躍しよう。そのようなイメージを持たせました。

本年度は初めて、記念誌の表紙デザイン案を在校生の有志から寄せていただきました。すてきな作品の数々をご提案いただき、感謝申し上げます。今後もこの取り組みが続き、在校生とのつながりが深まることを望みます。

年明け以降、理事会や、総会・懇親会の準備作業などの機会に、何度も学校に足を運んできました。正門をくぐる時は「おじゃまします」というかしこまったあいさつをつぶやきながらも、「ただいま」という帰巢の感覚が入り交じります。高校時代から身長は大きく変わっていませんが、何となく校舎やグラウンド、体育館などが小さく感じられるのは、成長の証しだと前向きに捉えています。

卒業後のこの20年、さまざまな場面で母校の名に助けられてきました。県内で暮らしていると、仕事などで出会った方々からは出身大学よりも高校名を聞かれることが多いような気がします。同窓だと分かった場合はもちろんのこと、出身高が違った場合でも一目置かれます。それは、先輩方が土台を築き、われわれの世代から後輩の皆さんへと引き継いだ伝統と信頼によるものだと感じています。

第40代生徒会長を務めた縁で今回、実行委員長を務めさせていただきました。母校に恩返しするめったにない機会だと思い、旧友に広く声をかけ、実行委員会を組織しました。メンバー同士で集まると、あの頃に戻ったような感覚になりました。無事にきょうを迎えられ、メンバーにも感謝を伝えたいです。

結びに、開催にあたりご協力いただいた全ての方々のますますのご発展とご活躍を祈念申し上げ、あいさつとさせていただきます。



同窓会開催に寄せて

令和7年度同窓会総会

副実行委員長

長 澤 重 俊

(20期卒)

令和7年度の甲府南高校同窓会総会が、同窓生、在校生、学校関係者、また様々なご縁のある企業、個人の方々のご協力のお陰で無事に開催されますことを嬉しく、また大変ありがたく思っております。

甲府南高等学校は1963年の創立から今年で63年目を迎え、これまでに21,000名を超える多くの卒業生を輩出しております。その卒業生が日本全国各地の様々な業界で活躍していることは実に喜ばしく、誇らしいことであります。また我々が在学していた時分には甲府南高等学校は県内でもまだ新興高校というイメージがありましたが、歴史を重ね今や山梨県を代表する高校になったと我々も自覚しなければなりませんし、その評判をまた同窓生、在校生がさらに磨き上げていく努力をしていかねばならない時期であると思っております。

しかし甲府南高等学校の評判を磨き上げていく方向性は決して伝統を誇りにするのではなく、むしろ校訓である「開拓者精神～Frontier Spirit～」から連想される新しい価値を求めていく清新さにあるように思います。歴史を重ねていながらも、いつまでも若々しく新たな挑戦を良しとする澁刺たる気風を持った学校としてブランドを築いていってほしいと思っております。そしてそのブランド構築は同窓会にも大いに責任があると考えています。

また甲府南高等学校の大きな特徴はやはりSSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）に象徴される理系教育の充実だと思えます。人工知能がどこまで進展するのか、本当に脅威を感じるこれからの時代において、理系の素養を身に着けていることは必要条件でしょう。さらに人工知能には担えない分野は人間の持つ志だと思っております。さまざまな社会的な課題解決を目指す情熱こそがこれからの時代を生き抜く人材の武器となるでしょう。

いささかこじ付けめいていますが、真・善・美という普遍の価値観を心の底流に持ち、開拓者精神に通じる志・情熱をもった甲府南高校卒業生が、日本の、いや世界の様々な社会問題を解決していく事が当校の評判を上げ、さらに優秀な生徒が入学するという好循環につながると信じています。甲府南高等学校がさらに「山梨県に甲府南高あり」とその名を全国に轟かせることを祈念して挨拶とさせていただきます。



同窓会総会開催に寄せて

甲府南高等学校

第62代生徒会長 鮫島 諒

この度、令和7年度甲府南高等学校同窓会が盛大に開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。

本年度、甲府南高校は県高校総体において、総合順位で史上初となる男女アベック入賞を果たしました。また、中国総体やかがわ総文祭にも、多くの部活動が出場するなど、目覚ましい活躍を見せています。私自身も、文芸部競技かるた支部の一員として、競技かるた高校選手権および総文祭に出場させていただきました。南高の仲間とともに、全国の同志と腕を競い、交流を深めた経験は、かけがえのないものとなりました。

部活動のみならず、生徒会活動や学習面においても、甲府南高校は県下公立高校のフロンティアとして、多方面で先進的な取り組みを行っております。こうした成果は、生徒一人ひとりの努力の結晶であると同時に、その努力を支える環境を整えてくださっている皆様のお力添えの賜物です。特に、同窓会の皆様には、部活動をはじめとする諸活動に対して多大なるご支援と温かいご声援をいただいておりますこと、心より感謝申し上げます。

さて、現在の世界は分断や差別、そして争いに包まれつつあります。世代、国籍、出生などの違いを認め合うことなく対立し、相手を排除しようとする動きが、国内外を問わず活発化しているように感じられます。インターネット上では、自分と似た意見に囲まれ、異なる考えを持つ人々の存在を見失ってしまう「エコーチェンバー現象」や「フィルターバブル」が、こうした傾向を加速させているのではないのでしょうか。このような予測困難で多様な課題に満ちた現代社会においては、私たちがすでに多文化共生社会の中に生きていることを認識し、他者を排除せず、対話と交流を重ねることが不可欠です。そのためには、実際に人と向き合い、言葉を交わすことが何よりも重要だと私は考えます。

その点において、学校という共同体は、人と関わりを持つことができる貴重な場であり、地域活動が希薄化する現代において、学校へ通うことの価値はますます高まっていると言えるでしょう。

一方で、フランスの哲学者ミシェル・フーコーは、学校や教育者には「利他的」な性格があり、それが時に権力的に作用すると指摘しています。確かに、知らぬ間に「良い子」の規範が形成され、その理想に向かって努力することが推奨されることで、不登校などの社会的問題が生じる可能性も否定できません。

このような課題を抱えつつも、学校は人と人をつなぐ重要な役割を果たしています。生徒会では、より良い学校生活を実現するために、日々対話を重ねています。先輩方から受け継いだ「フロンティアスピリット」を胸に、変化を恐れず前進し続けています。この精神と伝統は、きっと未来へと受け継がれていくことでしょう。

私たちは、そのバトンを後輩へとつなぐリレーの走者の一人であることに、誇りと高揚感を覚えています。進化し続ける甲府南高校を、今後とも同窓会の皆様に温かく見守っていただければ幸いです。

令和7年度 同窓会懇親会

アトラクション

甲府南高校吹奏楽部・管弦楽部・音楽部・SSH課題研究

本日は同窓会懇親会にお招きいただき、誠にありがとうございます。私たち吹奏楽部は、現在2年生2名・1年生9名の計11名で活動しており、これまでの経験を活かしながら新たな挑戦を続け、日々技術の向上に努めております。活動にあたっては、指導して下さるOBの先輩方をはじめ、多くの皆様から温かいご支援とご協力をいただいております。本日は皆様への感謝の気持ちを込めて、部員一同で心をひとつに演奏いたします。どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。

吹奏楽部 部長 鷹野 結梨

同窓会の皆様、いつも温かいご支援を賜りありがとうございます。私たち管弦楽部は、1年生4名、2年生8名の計12名で活動しており、日々練習に励んでおります。本日は多くの先輩方の前で演奏させていただくことに緊張しておりますが、感謝の気持ちを込めて、精一杯演奏いたします。3年生の引退を経て新体制となった私たちの演奏はまだ発展途上ではありますが、温かいお気持ちでお聴きいただければ幸いです。

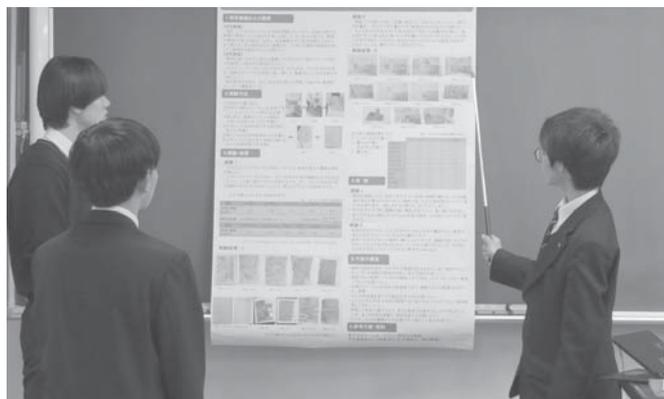
管弦楽部 部長 有馬 眞

吹奏楽部と管弦楽部のコラボ演奏(緑陽祭)



甲府南高校音楽部です。日頃より温かいご支援をいただき感謝申し上げます。音楽部は本館5階の音楽室にて活動しており、10名の部員が心をひとつに楽しく音楽に取り組んでいます。本日は吹奏楽部と管弦楽部とのコラボレーションによる演奏をお届けいたします。南高のさらなる発展を願い、感謝の気持ちを込めて一生懸命に歌わせていただきます。

音楽部 部長 鞠子 楓



○SSH課題研究

甲府南高校では、生徒が自ら課題を設定し、調査・考察・発表までを行う「課題研究」に取り組んでいます。この活動は、主体的に学ぶ力を育てるとともに、将来の進路や社会で活躍するための土台となる力を養うことを目的としています。

